



自立・敬愛・創造

学びに向かう力を育み、ともに励みあう学校

和田山中学校学校だより 令和5年3月10日号

ここ数日、暖かい日が続き、校庭にある桜のつぼみも大きく膨らんできました。昨日、天候に恵まれた中で、令和4年度 第76回 卒業証書授与式を行うことが出来ました。3年生は、本日、3月10日(金)に公立高校学力検査が行われました。合格発表は3月17日(金)です。1・2年生は3年生が卒業したあと、和田山中学校のよき伝統を引き継いでいって下さい。そして、3月24日(金)の修了式まで、残りわずかですが色々な取り組みを頑張ってください。

令和4年度 第76回 卒業証書授与式

3月8日(水)に、令和4年度 第76回 卒業証書授与式を挙行了しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ数年は在校生については列席していませんでしたが、本年度は在校生も列席し、全校生徒が揃う中での卒業証書授与式を行うことが出来ました。卒業生147名は卒業証書を受け取り、和田山中学校での3年間の生活を終え、新しい目標に向かって旅立っていきました。1・2年生は卒業生に心を込めて会場準備や教室の飾り付けや清掃を行いました。その姿を見ていると、3年生が残してくれた和田山中学校の素晴らしい伝統を1・2年生が引き継いでくれると確信しました。

<送辞>

グラウンド一面に積もっていた雪も解け、教室の窓からは、明るい春の光が差し込んでいます。

本日、この和田山中学校を、卒業式される、皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。

コロナウイルスの影響で、卒業生の皆さんも、私たち在校生も初めて迎えるこの卒業式。どんな気持ちでこの日を迎えられましたか。

先輩方は、中学校の入学からコロナウイルスの影響で、いろいろなことに制限され、生活してこられました。ですが、くじけず学校の華として、わたしたちをリードしてくださいました。皆さんと過ごしたこの2年間は、長いようでとても短く、多くの思い出が詰まっています。そんな皆さんの卒業式を私たち在校生も一緒に迎えられること、とてもうれしく思います。

先輩方は、コロナウイルスという壁がありながらも様々な場面で時には優しく、時には厳しく、私たちをリードしてくださいました。

体育大会では、前日まで大雨で、グラウンドが水浸しになっていました。そんな中、朝早くから先輩方がグラウンドを整備してくださったおかげで、無事に体育大会も行え、私たちの思い出に残るものになりました。体育大会で私が一番印象に残っているのは、クラスや団対抗で行うリレーです。足元が緩く、滑ってこけている人がたくさんいました。それでも各団で一生懸命応援していたのが、感動的でした。私たちの思い出に残る体育大会をつくっていただいたこと、本当に感謝しています。

さらに、3年ぶりにジュピターホールで行った文化祭。3年生の学年合唱、「友」の曲は、ホール全体にハーモニーが響き渡り、とても美しく素敵で感動しました。今でも鮮明に覚えています。

部活動では、短い間でしたが、わからないところも分かるようになるまで、丁寧に教えてくださいました。先輩方のこの優しさはいつまでも忘れません。

今この和田山中学校を卒業され、大きな一步を踏みだそうとしている先輩方。中学校生活では、コロナウイルスの影響で思うように活動することができなかったと思います。ですが、そんなことにも負けず中学校3年間を乗り越えた、この経験はこれからの生活に生かされることなのでしょう。自分を信じて、目標をもって、未来に向かって歩いていってください。私たちは、皆さんが創り上げてくださった和田山中学校の伝統を引き継ぎ、皆さんの誇れる母校として、さらに発展させていきます。最後に、皆さんのこれからの健康とご活躍を、心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和5年3月8日

在校生代表 勢溜 夢依

〈答辞〉

厳しい冬の寒さが終わり、温かい日差しの中に春の訪れを感じるこの良き日に、私たち147名は思い出多き和田山中学校を卒業します。

振り返ると、あっという間に過ぎた三年間。この学校で大切な仲間と歩んできた日々が次々と脳裏に浮かんでいきます。

2020年4月10日。私たち147名は、真新しい制服に身を包み、これから始まる中学校生活への希望を抱き、校門をくぐりました。私たちを優しく迎え入れてくださった先生方や先輩方のおかげで、新たな仲間とともに大きな一歩を踏み出すことができました。

しかし、入学式翌日に始まったのは、新型コロナウイルス感染症の影響による自宅待機期間でした。一体いつになれば中学校の仲間たちと生活できるのだろうと、新生活への期待は、日増しに不安へと変わっていきました。約二か月も続いた自宅待機期間が解け、ついに始まる学校生活に胸を躍らせました。しかし、少人数クラスで行われる授業や、一人静かに食べる給食等、制限のかかった生活が続きました。それでも新しい学校生活に慣れていこうと必死だったのを今でも思い出します。

二年生になると後輩ができた事で、先輩としての自覚と責任感が芽生えてきました。五日間実施された「トライやるウィーク」では、【共・協・叶～心に響く経験に～】をスローガンに掲げ、働くことの大切さや、やりがいだけでなく、苦労や大変さも同時に学びました。そして、毎日働いてくれている家族や、協力してくださった地域の方々へ、感謝する気持ちがさらに大きくなりました。

最上級生となった三年生では、【桜梅桃李 ～一人一人の個性、花開く和の中へ～】この生徒会スローガンのように、一人ひとりの個性が目一杯、花を咲かせ、それぞれの個性を認め合える学校を創っていこうと力を出しました。

二年ぶりに保護者の方も観覧できるようになった体育大会では、保護者の方々に和中の「新しい体育大会」を見ていただくこと、夏休みから団リーダーを中心に「和志成願」の企画や練習の準備に取り組みました。本番では、「輝笑団結」のスローガンのように和中生の輝く笑顔がグラウンドいっぱいに広がり、体育大会を成功させることができました。支えてくださった皆さん本当にありがとうございました。

自分たちだけのハーモニーを響かせようと努力を重ねた文化祭。今年は例年通りジュピターホールでの開催となり、各クラスが文化祭大賞を目指し一生懸命歌いました。多くの困難があったからこそ、クラスの絆をより一層深めることができました。学年合唱でジュピターホールいっぱいに響かせた「友」の歌詞には、「同じ空の下どこかで僕たちはいつも繋がっている」という言葉があります。それぞれの道へ進んでも私たちはいつも繋がっていられるのだと感じました。

私たちが過ごした三年間は決して楽なことばかりではありませんでした。でもいつだって私たちを救ってくれたのはマスクで遮られても消えない、最高の笑顔の仲間たちでした。いつも笑いが絶えなかった休み時間。真面目に考え、取り組んだ授業。共に笑い、共に泣き、真剣に取り組んだ部活動。そんな当たり前の日常は私たちにとって、大事な宝物です。

三年間、互いに支え合い、高め合い、多くの時間を共有してきた七十六期生のみんな、ありがとう。

在校生の皆さん、皆さんとは行事や部活動を通して関わることができました。皆さんがいてくれたおかげで、私たちは少しでも頼れる、よい先輩になろうと努力することができました。今まで私たちについてきてくれてありがとうございました。

時間の流れは想像よりも遥かに早く、特に三年生の一年間は、瞬く間に時間が過ぎてしまいます。だからこそ、一日一日を大切に、悔いのないように過ごしてください。

次は、皆さんがこの半世紀以上の歴史を持つ和田山中学校の伝統を引き継ぎ、それぞれが持つ個性を活かして、さらに発展させていってくれることを強く信じています。

そして、私たちが楽しく、有意義な学校生活を送れるように、様々な面で支えてくださった先生方。たくさん迷惑をおかけしましたが、先生方のおかげで、成長する事が出来ました。感謝の言葉しかありません。時には叱られることもありましたが、それも愛情だったのだと今になって思います。お世話になり、本当にありがとうございました。

またこの学年をまとめ上げてくださった学年代表の先生方には感謝しかありません。1、2年次、私たちの絆を繋げ、学年の強い土台を築いてくださった、藤本英子先生。その土台の上に様々なことに挑戦させてくださった三木恵介先生。三木先生は私たちの見えないところでも私たちのことを一番に考え、いつも優しく支えてくださいました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、私たちを一番近くで見守り、15年間育ててきてくれた家族の皆さん。今までたくさん苦労や迷惑ばかりをかけてきました。けんかや八つ当たりをしたこともありましたが、それでも、温かい愛情を注いで、優しく支えてくださったおかげで、私たちは、今日という日を迎えることができました。これから先も迷惑をかけてしまうと思いますが、また温かくそばで見守っててください。普段は恥ずかしくて言葉にできませんでしたが、本当に感謝しています。ありがとうございました。

私たちは今、九年間の義務教育を終え、一人一人が新たなスタートラインに立とうとしています。それぞれの道に向かって、自分たちの思い描いた「夢」を実現させられるよう、大きく堂々とした一歩を踏み出すことを誓い答辞といたします。

令和5年3月8日

卒業生代表 小林 海翔



第76回 卒業証書授与式の様子